

# みらい

唐津赤十字病院広報誌



2014 Vol.02

A P R I L

第2号

We hope a "Bright Future" 地域の明るい未来を願って



02 【お医者さんに聞きました!】



## 「最近注目されている 新たな糖尿病合併症」

04 【トピックス】 糖尿病フットケア外来とフットウェア外来

05 【活動報告】 12月～3月

06 【各科紹介】 外科・乳腺外科・呼吸器外科

08 【くすりの話】 お薬手帳

08 【健康レシピ】 スパイシーサラダ



ご自由に  
お持ち下さい

TAKE FREE

お医者さんに聞きました!

# 最近注目されている 新たな糖尿病合併症 がん・認知症・骨病変

生活習慣病の代名詞ともいわれる糖尿病。

糖尿病の恐ろしさは、それが原因で引き起こす様々な合併症にあり、その早期発見・予防が大切です。

今回は、内科医の茨木一夫副院長が最近注目されている新たな糖尿病合併症についてお話しします。

## 糖尿病治療

糖尿病治療の目標は血糖値が高いために起こる口渇・多尿や疲労感などの症状を改善することだけではありません。症状はなくても高血糖が長く続くことによって起こる合併症を予防すること、また合併症が生じている患者さんではその進行を抑え、健康な人と同じように活動的で快適な社会生活を続けられるようにすることが治療の大きな目標です。

## 合併症の種類

糖尿病の合併症には①細い血管(細小血管)の病気である眼(網膜症)、腎臓(腎症)、神経(神経障害)の合併症。②太い血管の病気である動脈硬化による脳卒中、心筋梗塞や足病変。③感染症があります。合併症の早期発見・治療のため血液検査はもちろん、眼科診察・微量アルブミン尿・フットケア外来・心電図・頸動脈エコー・足関節上腕血圧比などが定期的に行われます。

唐津赤十字病院 副院長

茨木 一夫

プロフィール

profile

唐津市出身  
唐津東高校卒業  
広島大学医学部卒業  
内科医  
平成20年より唐津赤十字病院副院長

お医者さんに聞きました!

お医者さんに聞きました!

## 新たな合併症 1. がん

最近新たな糖尿病合併症としてがん・認知症・骨の病気が注目されています。日本糖尿病学会と日本癌学会の調査研究で2型糖尿病では全がんの発症リスクが1.2倍に上昇することが分かりました。中でも膵臓がん1.85倍、肝臓がん1.97倍、大腸がん1.40倍が有意に高く乳がんや前立腺がんは糖尿病との関連はありませんでした。(別表参照)この原因は今のところ明らかではありませんが、バランスのよい食事や肥満対策、運動、禁煙、節酒で糖尿病とがんの両方を予防・改善し、がん検診を受けることが大切です。

## 新たな合併症 2. 認知症

糖尿病患者は非糖尿病患者に比べて認知症を発症する危険性が2~4倍高いと言われていいます。認知症は「アルツハイマー型」と「脳血管型」に大きく分けられますが糖尿病ではどちらの認知症でも罹患率が高くなっています。糖尿病の期間が長く、動脈硬化や腎症などが進んでいるほど発症率が高くなります。認知症の原因については様々な因子が関係していると考えられています。血糖コントロールが認知機能の低下を防ぐことができるかという点に関してはまだ結論はでていませんが、HbA1cの上昇とともに認知機能が低下することが報告されています。HbA1c 7.0%未満を目標にコントロールすることが認知機能を良好に保つ有効な対策になると思われます。低血糖や食後高血糖にも注意が必要で最近多用されているインクレチン関連薬(DPP-4阻害薬・GLP-1受容体作動薬)が認知症予防に期待されています。

## 新たな合併症 3. 骨の病気

最後に2型糖尿病では非糖尿病患者に比べて骨折率が上昇し、大腿骨近位部骨折は1.7倍増加しています。骨量減少による骨粗しょう症のみではなく高血糖による骨質の劣化が重要と考えられています。経口血糖降下薬の骨への影響も考えられています。これら3つの新たな合併症は生命や生活の質への大きな脅威となる問題であり、対策が確立されるまで良好な血糖コントロールと生活習慣の改善に努めることが重要です。

## ポイント

糖尿病予防には、何といても生活習慣の改善、特に食事が大事です。当院でも糖尿病教室を開催していますので、是非ご参加ください。

## 糖尿病のがんの罹患リスク

胃がん	1.06 (0.91~1.22)
大腸がん	1.40 (1.19~1.64)
肝臓がん	1.97 (1.65~2.36)
膵臓がん	1.85 (1.46~2.34)
乳がん	1.03 (0.69~1.56)
子宮内膜がん	1.84 (0.90~3.76)
前立腺がん	0.96 (0.64~1.43)
膀胱がん	1.28 (0.89~1.86)

糖尿病フットケア外来とフットウェア外来



内科医師(糖尿病)  
竹之下 博正

糖尿病患者さんは足のトラブルを  
起こすことが多いのはご存知でしょうか？

実は世界では糖尿病の為に20秒間に1つの足が失われております。この原因は下肢の血流の障害と糖尿病による神経の合併症とが合わさっております。しかし、これらは意外と気づかないうちに進行していることが多いです。実際、足の切断に至ってしまった患者さんからは「糖尿病と足の切断の事は知っていたけどまさか自分がこんな事になるなんて」といったことを耳にします。その為、糖尿病を患っている方は何もなくとも1年に1回は足を医療従事者に診させていただく事が必要だと言われております。

しかし、残念ながら待ち時間の長い診療の中で外来主治医が足を診察することは非常に難しい状態です。その為、当院には厚労省に指定されたフットケアの研修を終了した看護師が外来で皆様の足を診させていただきます。その上で何か問題があれば主治医と連絡をとり、必要な診察や処置を行います。また、必要があればご自身にあった中敷きや装具を作成するフットウェア外来もございます。足を人に診てもらうのは恥ずかしいかもしれませんが、手遅れにならないためにも、さあ、靴下をとって(ストッキングまでは脱ぐのは大変かもしれませんが^^)足を診せてください!!

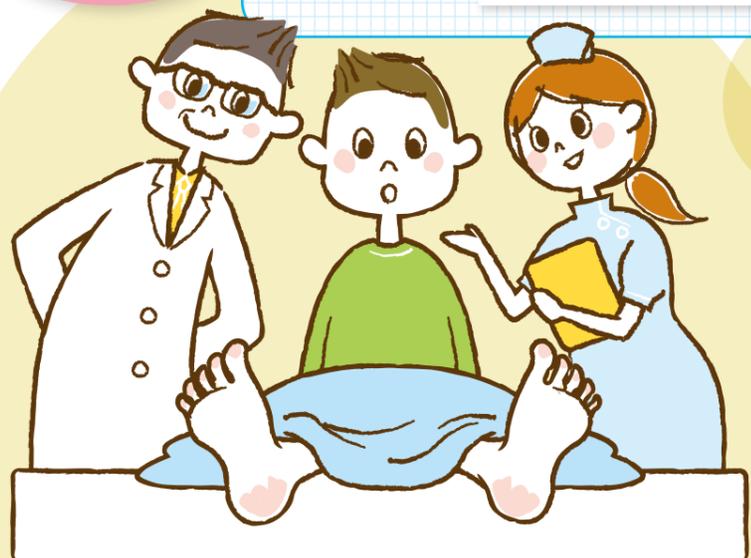


糖尿病の影響により変形した足の指

出来上がった中敷き



足の型を作る作業



Merry Christmas♪

10年ぶりに復活!クリスマス会を開催

**12月25日(水)** 当院の1階渡り廊下において、小児科の医師と看護師によるクリスマス会を開催いたしました。クリスマス会では、歌やダンスをはじめ、バルーンアートやバイオリンの演奏なども行い、患者さんも楽しまれていました。小児科の入院患者さんにはサンタさんからクリスマスプレゼントが送られました。



医師も看護師も  
ノリノリで  
AKB48の曲を  
踊っています♪

地域との医療連携を密に!

第33回紹介症例報告会を開催

**1月28日(火)** 平成26年1月28日(火)に第33回紹介症例報告会を開催しました。参加者は58名(院外16名、院内42名)でした。症例報告では7症例あり紹介元の先生方と活発な意見交換が行われました。今回、九州大学基幹教育院健康支援センター教授の丸山徹先生を講師にお迎えし「日常心電学の最近の話題」について講演して頂きました。実際の症例をもとに詳しく解説され、質問や意見が数多く出ていました。年に一度の外部講師を招いての特別回ということもあり、参加された方々は貴重な講演に大変興味深く聴き入っておられました。



ACTIVITY REPORT

活動報告

12月~3月

胃がんについて学ぼう!

地域がん診療連携拠点病院特別講演会を開催

**2月28日(金)** 唐津ソーサイドホテルにおいて、第5回特別講演会を開催しました。この講演会は、当院が地域がん診療連携拠点病院として行っている取り組みの一つです。今回は、国立がん研究センターの與田幸恵先生を講師に迎え、「胃がん Up to date」と題して講演いただきました。院内外の医師を主な対象とした講演会で、約50名の参加がありました。現在行われている臨床試験などの話題も含めた内容で、参加された医師からも多くの質問が出ていました。



万一の火災に備え万全の準備を!

防火教室・消防訓練実施

**3月19日(水)** 平成26年3月3日(月)に防火教室を、19日(水)に消防訓練を実施しました。昨今、九州内の病院において病院火災が発生し死傷者が出るなど、痛い事故が相次いでいます。こうした事態を受け、職員一人ひとりの防火に対する意識も少しずつ変化してきています。今回の防火教室や消防訓練を通して、いつでもどこで火災が発生しても冷静に対応できるように心構えをしておくことは、病院火災のみならず普段の生活においても大切なことだと学びました。



# 外科

診療科の紹介

## ■スタッフ紹介

湯ノ谷誠二 副院長  
(昭和57年卒/消化管、消化器外科全般)

鮫島隆一郎 第1外科部長  
(平成2年卒/消化管、消化器外科全般)

井久保 丹 第2外科部長  
(昭和63年卒/肝胆膵、消化器外科全般)

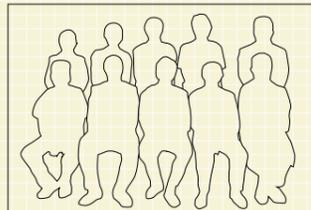
酒井 正 第2外科副部長(兼医療社会事業部長)  
(昭和63年卒/大腸・肛門、消化器外科全般)

神谷 尚彦 第1外科副部長  
(平成3年卒/肝胆膵、消化器外科全般)

北川 浩 医師  
(平成21年卒/消化器一般全般)

江戸 都 医師  
(平成22年卒/消化器一般全般)

江戸 神谷 北川 酒井 古垣



井久保 加藤 湯ノ谷 田淵 鮫島

## ✦診療実績

平成24年度 DATA  
外来患者延数 ……13,651人  
入院患者延数 ……16,611人  
平均在院日数 ……14.0日



## 外科の紹介

当科は主に消化管の疾患から肝胆膵脾の疾患など多数の疾患を診療しており、特に、がん治療と救急医療を中心に展開しています。県内で3病院が指定を受けている「地域がん診療連携拠点病院」として、手術療法を中心に化学療法(抗がん剤)・緩和治療まで幅広いがん治療に力を入れています。救急医療では24時間緊急手術に対応できるように体制を整備しています。

## 主な疾患

- 食道疾患 …… 食道がんでは消化器内科、放射線科、麻酔科の各専門と連携の上、個々の患者さまにとって最良と考えられる治療(粘膜切除、手術、放射線治療、化学療法など)を集学的に行っています。
- 胃・大腸疾患 …… 胃がん、大腸がん、虫垂炎などでは、できる限り患者さまにやさしい腹腔鏡下手術を取り入れています。進行してしまった胃がん、大腸がんの患者さまにはEBM(Evidence Based Medicine:科学的根拠に基づく医療)に基づいた化学療法を積極的に行っています。
- 肝・胆・膵疾患 …… 良性疾患の胆石から悪性疾患(肝臓がん、膵臓がん、胆のうがんなど)診断、内視鏡的な緊急処置、手術、術後補助化学療法まで一貫して行っています。大部分の胆嚢結石は傷の小さなからだに優しい腹腔鏡下で行っています。最近では、肝、膵の悪性疾患にも腹腔鏡下手術を行っています。

## 化学療法について

EBMに基づき審査されたレジメンにて、積極的に(内分泌)化学療法を行っています。患者さまのQOL(Quality of Life:生活の質)を考え、可能な限り外来通院での治療を行っています。皮下埋め込み式リザーバーを用いた抗がん剤投与も積極的に取り入れています。

## 放射線治療について

放射線治療はからだに優しい治療法で乳がん、肺がん、前立腺がん、緩和治療などに多く使用され、集学的治療(手術、放射線治療、抗がん剤などを組み合わせた治療)の一つとして用いられています。



リニアック(放射線治療器)

## 乳腺外科の紹介

当科は乳腺(内分泌)疾患の患者さまを専門的に診療しています。主に乳がんに対するマンモトーム生検、乳房温存療法(乳房温存手術+術後放射線照射)、センチネルリンパ節生検を積極的に行い、乳がんの特徴に合わせたホルモン療法、術前・術後化学療法など実施しています。患者さまひとりひとりに安心の医療を提供するとともに質の高い医療を目指しております。

## マンモトームの紹介

マンモトームはマンモグラフィでしかわからない石灰化病変を確定診断する装置で、当院が導入しているマンモトーム装置は「うつぶせタイプ」となっております。検査の際には腹臥位で行うため、患者さまの楽な姿勢で、穿刺針や穿刺部位が目に入らず操作手順も見えにくく、心身ともに負担なく検査を受けることができます。



マンモトーム

## 平成26年4月 呼吸器外科を新設!

## 呼吸器外科の紹介

現在、死亡原因の第一位を占めるがんの中で死亡数の第一位は肺がんですが、肺がん治療は目覚ましく進歩しています。中でも外科手術は、術後の痛みが少なく、早い回復が期待できる胸腔鏡下手術に大きく変化しています。胸腔鏡下手術を中心に化学療法、放射線治療と一体となって唐津地区の肺がん治療に取り組んでいます。また、呼吸器外科の対象となる疾患は肺がんだけでなく縦隔腫瘍や自然気胸、膿胸などですが、その殆どは手術を胸腔鏡下手術で行っています。



カンサーボード

外科、消化器内科、呼吸器内科、放射線科、麻酔科、看護師、研修医達が週に1回一同に集まり、治療法の決定、問題症例の検討、術後報告、病理カンファ等を行っています。

## ■スタッフ紹介

田淵 正延 乳腺外科部長  
(昭和54年卒/乳腺外科)

## ✦診療実績

平成24年度 DATA  
乳房切除術 ……34例  
乳房温存術 ……23例  
乳腺腫瘍摘出(生検) ……15例

# 乳腺外科

診療科の紹介

# 呼吸器外科

診療科の紹介

## ■スタッフ紹介

加藤 雅人 呼吸器外科部長  
(昭和54年卒/呼吸器外科)

古垣 浩一 呼吸器外科副部長  
(平成6年卒/呼吸器外科)

各科紹介

07

各科紹介

06

医療機関を受診したり、調剤薬局で薬をもらうときには、  
『お薬手帳』を持参してください。

お薬手帳とは…

あなたがいつ、どこで、どんな薬を処方してもらったかを記録しておく手帳のことです。

複数の医療機関を受診している場合や、引っ越ししたときなど、『お薬手帳』を提出していただくことで、あなたがどんな薬を処方されているかを確認し、薬の重複投与を避け、相互作用をチェックします。また、過去にどの薬で副作用が出たか、アレルギーの有無などを医療従事者が知ることができ、医薬品の適正使用に役立てることができます。

その他に、旅行するとき、薬局で薬を購入するとき、休日診療所や救急病院を受診するとき、災害にあったときなどに役に立ちます。

[監修] 薬剤課長 岩田 和弥



『お薬手帳』の使い方のポイント

- 医療機関を受診するときは必ず持参するようにしましょう。
- 一般用医薬品(OTC医薬品、大衆薬)・健康食品についても記録しましょう。
- 薬についてわからないことや困ったことを書くようにしましょう。
- いつも携帯・いつも同じ場所に保管しましょう。
- 一冊にまとめましょう。

健康  
レシピ  
紹介

スパイシーサラダ

(1人分) 43キロカロリー 塩分0.3g



[監修] 管理栄養士 近藤 まゆ子 調理師 木下 きよ

春キャベツが美味しい時期です。糖尿病教室の調理実習で好評だったレシピで、スパイスを効かせた低カロリー・塩分控えめの一品です。キャベツのかわりに海藻を入れても美味しいですよ。ぜひお試しください。

作り方

- 1 キャベツは2cm角程度に切り、さっと茹で水気を絞る。人参は4cm程度の長さのせん切り、胡瓜は斜め半月状のうす切りにし、合わせてザルにうつつし熱湯をかけしんがりさせて水気を絞る。コーンは水気をきっておく。
- 2 調味料を合わせて①を加え、混ぜ合わせる。

材料 (5人分)

キャベツ……………150g	●調味料	ニンニクパウダー…少々
胡瓜……………150g	カレー粉……………少々	酢……………25cc
スイートコーン缶…25g	マヨネーズハーフ 25g	人工甘味料……………5g
人参……………25g	粒マスタード……………15g	塩……………1g

❖ 編集後記

広報誌『みらい』第2号を発行しましたが、いかがでしたか。この『みらい』は、当院のことをもっとよく知ってもらいたいという強い思いから創刊しましたが、参考になっているでしょうか。春を迎え、広報推進室メンバー一同、また新たな気持ちで広報活動に取り組んでまいります。これからもこの『みらい』に未来への希望と祈りをのせて、地域みなさんに情報をお届けしていきますので、よろしくお願いいたします。

広報推進室 大松 万佐也